

# 平成22年度宇宙利用促進調整委託費の 採択課題の決定について

平成22年10月13日  
研究開発局宇宙開発利用課

○宇宙利用促進調整委託費は、宇宙基本計画等に沿って、衛星利用の裾野拡大を図るために、産学官の英知を幅広く活用して人工衛星に係る潜在的なユーザーや利用形態の開拓等を推進する新たな仕組みとして、平成21年から導入されたもの。

○平成22年度新規分(予算額180百万円)については、準天頂衛星初号機「みちびき」を含む測位衛星の新たな利用について、産学官の競争的環境のもとで公募・選定を実施。

- ・公募期間:7月20日～8月16日
- ・応募件数:31件(うち、準天頂衛星の利用を含むもの25件)
- ・採択件数:8件
- ・今後の予定:実施機関と契約後、委託先において事業を開始

平成22年度 宇宙利用促進調整委託費 採択課題

課題名	提出機関	終了予定年度
準天頂衛星を活用した基盤地図情報の整備・更新に係る検証	株式会社パスコ	平成22年度
IT農業の実現に向けた準天頂衛星による高精度走行システムの実証実験	日立造船株式会社	平成23年度
海上での高精度測位応用に向けたQZS-PPP評価	古野電気株式会社	平成24年度
準天頂衛星を利用したオートステアリングシステムの精度向上	株式会社トプコン	平成24年度
障害に強い(ロバストな)位置情報のための地域的測位衛星の高度利用	独立行政法人 電子航法研究所	平成24年度
道路標識・道路標識等、道路空間におけるQZSS時刻利用	国立大学法人 東京海洋大学	平成23年度
測位衛星システムを利用した捜索救助衛星システムの高度化に関する実証試験	太洋無線株式会社	平成23年度
高精度衛星測位データを用いた気象予測システムの構築	国立大学法人 京都大学	平成24年度

平成22年度宇宙利用促進調整委託費審査評価会 構成員

國井 秀子	リコーソフトウェア株式会社取締役会長
澤岡 昭	大同大学学長
柴崎 亮介	東京大学 空間情報科学研究センター 教授
田代 大輔	特定非営利活動法人 気象キャスターネットワーク事務局次長
続橋 聡	社団法人日本経済団体連合会 産業技術本部長
西口 浩	衛星測位システム協議会事務局長
林田 佐智子	奈良女子大学理学部情報科学科教授
的川 泰宣	子ども・宇宙・未来の会 会長

(五十音順、敬称略)

# 平成22年度 宇宙利用促進調整委託費について

○平成22年度新規分については、測位衛星の新たな利用について、産学官の競争的環境のもとで公募・選定し、宇宙利用の裾野拡大を図ります。

## 目 的

平成22年度においては我が国初の測位衛星となる準天頂衛星初号機「みちびき」の打上げが予定されており、我が国の測位衛星利用の高度化が期待されています。現在、測位衛星利用については、カーナビゲーションやGPS機能付き携帯電話など、国民生活の中に幅広く浸透していますが、今回の準天頂衛星の打上げを契機に従来の衛星利用の枠を超えた新たな利用を開拓するために実施するものです。

## 対 象

測位衛星(既存の測位衛星(GPS衛星等)及び準天頂衛星初号機「みちびき」)の利用の高度化を目指した新たな利用方法を開発し、利用可能性の実証を行う者

(取組例)

安全・安心の確保(防災や児童・高齢者の見守り等)、国土保全・管理(基盤地図整備等)、環境対策や生産性の向上(渋滞対策や運行管理、自動運転等)、地域活性化や利便性の向上(パーソナルナビゲーション等)

## 事業規模・期間

原則として、1件あたり3千万円程度まで 6件程度  
原則として、1～2年(最長で3年)

## 今後の予定

委託契約後、各機関で事業を開始(11月中)



準天頂衛星(イメージ) GPS衛星(イメージ)